

情勢報告（平成27年8月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

仁淀川流域から6次産業化を推進！～J Aコスモスの緑茶を県内量販店へ売り込み～



緑茶商品について
熱心に説明

7月28日、県の6次産業化推進事業を活用し、J Aコスモスが(株)土佐山田ショッピングセンター「バリューノア店」で緑茶の営業活動を行いました。当日は、同社から社長および物販担当者3名が出席し、生産側はJ Aコスモスの他、6次産業化アドバイザー、地域農業推進課、高吾農改3名が参加しました。現状では緑茶の知識が少ない消費者が多いと思われることから、来店客を対象に緑茶の種類やお茶の淹れ方、茶の種類に合わせた菓子の選択などを講座形式で実施し、緑茶に関心を持ってもらうことが望ましいことで合意しました。今後、内容について打ち合わせをしながら、9月以降にお茶講座を実施する予定です。

普及所では、茶の生産振興のため、今後もJ Aコスモスの販売活動に協力していきます。

農業の基礎知識を習得！「高吾えいのう塾」スタート



熱心に受講中

普及所では、新規就農者や就農希望者を対象とした新規就農基礎研修「高吾えいのう塾」を開催しています。今年度は座学で年間4回計画しており、7月30日に第1回目「農業全般について」（参加者7名）、8月12日に第2回目「病害虫と農薬について」（同6名）を開催しました。特に農薬関連では、日頃疑問に思っている内容について多くの質問があり、熱心な質疑が行われました。

研修後のアンケートでは、品目別の研修会の希望や栽培方法等に不安を感じている等の回答があったことから、研修で対応できない部分については品目担当者と連携しながら対応していきます。

トマトの産地拡大に向けて ～新たな技術の勉強会を開催～



フィルム農法とは？

8月4日、普及所では、産地の規模拡大や新たな技術研修を目的に、アイメック®（フィルム農法）という栽培システムを利用した高糖度トマトの栽培技術について、供給元であるメビオール株式会社から講師を招き勉強会を実施しました。この農法は、植物の根の機能とハイドロメンブランという特殊フィルムを利用したシステムで、篤農技術を特に必要としない栽培ということで、農家の関心も高く、「費用はどのくらい」「灌水のタイミングは？」など、様々な質問が出されました。

普及所では、今後とも様々な情報を生産者と共有し、産地の規模拡大に努めていきます。

促成大玉トマト・高糖度トマトの定植始まる



定植も終わり、いよいよ
栽培開始

今年も管内の主要品目である促成トマトの栽培が始まり、大玉では7月19日から、高糖度では8月10日から苗の定植が始まりました。

普及所では、栽培ほ場ごとの土壌診断や診断結果に基づく適正施肥の指導、定植前後の土壌水分の状態を把握し、適切な栽培管理ができているか確認しながら指導にあたっています。特に高糖度トマトでは、収量、品質の善し悪しが、定植後1ヶ月間の管理でほぼ決まってしまうため、定期的に巡回を行いながら、高品質で安定した生産のため、栽培指導を実施していきます。

高吾地区農村女性リーダー等の研修会を開催



オランダ視察研修について
受講中

8月6日、普及所では高吾地区の女性農業者を対象に、安芸市で研修会を行い、農村女性リーダー、女性農業者、関係機関から11名の参加がありました。

安芸地区農村女性リーダー籠谷氏による「オランダ視察研修報告」の講義および安芸市の6次産業化取り組み事例として「メリーガーデン」を視察し、研修を行いました。

参加者からは、「研修で得たものを自分の家の経営に入れるために家族間でどういう過程を経たか」などの質問や「規模や環境、栽培方法等が違っても参考になることがあることがわかった」などの声がありました。

普及所では、これからも研修会の開催や活動への助言を行い、女性農業者の資質向上や交流促進を支援していきます。

黒岩梨栽培研究会が勉強会を開催－黒岩梨栽培研究会の取り組み－



黒岩地区での園地巡り

8月5日、黒岩梨栽培研究会が園地巡り並びに果樹試験場での新品種の勉強会及び視察を行い、研究会員25名、佐川町、当普及所からそれぞれ1名が参加しました。

園地巡りでは3園を巡回し、発育枝の生育や花芽の着生、果実肥大が順調であることを確認しました。果樹試験場では新品種の説明があり、なかでも早生新品種の「凜夏」は会員の関心が高く、試験場内の試験樹を集中的に視察しました。

普及所では、今後も研究会活動を支援するとともに、現在の主力品種である「新高」の栽培管理や新品種の導入希望者に情報提供を図っていきます。

J A コスモス佐川支所イチゴ部会が園巡り（研修会）を実施



部会員相互に生育状況を確認、意見交換

8月10日、J A コスモス佐川支所イチゴ部会の園巡りが実施され、生産者20名、J A および普及所から4名が参加し、部会員の育苗ほ場を巡回、生育状況を確認しました。巡回では、主力品種である「ゆめのか」と「とちおとめ」の育苗技術や、遮光資材などの育苗ハウスの環境について活発な意見交換が行われました。

普及所からはハダニ防除対策について説明し、特に殺ダニ剤耐性のハダニ防除について指導を徹底しました。

今後、普及所では、健苗育成のため育苗後期の栽培管理を徹底し、イチゴの安定生産技術の普及を目指していきます。